

会議・打合せ等記録

市長	副市長	部長	次長	課長等	補佐	係長等	担当

報告日：令和3年12月27日

名称	鹿沼市子ども・子育て会議
日時	令和3年12月23日（木）14時00分～15時45分
場所	市庁舎3階 特別会議室
出席者	<p>委員：星順子、川田夏子、寺崎勝利、福田明、小野口正子、栗原森人、室田かおる、石田雅美、永田由美子、植木良充、佐藤彰彦、細川朋子、茂呂英運、岩本雅子、石川さやか、加藤美智子、小平順一、桐渕ゆか</p> <p>市：上林こども未来部長、杉山保育課長、仲田こども総合サポートセンター所長、江田保育推進係長、白井保育認定係長、川中子こども・家庭相談係長、高橋母子健康係長</p> <p>事務局：高橋子育て支援課長、福田こども支援係長</p> <p>（欠席）委員：細川朋子</p>
内容及び結果	<p>1. 開会</p> <p>2. 市長あいさつ</p> <p>3. 委員紹介（自己紹介）</p> <p>4. 会長及び副会長の選出について 会長：星委員、副会長：岩本委員を互選</p> <p>5. 会長あいさつ（星順子会長）</p> <p>6. 議事</p> <p>(1)鹿沼市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について</p> <p>○各担当が資料順に説明</p> <p>(桐渕委員) 子育て短期支援事業について、施設でなく里親に預けることを県でも勧めている。市では制度改正をして、里親が受託できるようになっているのか。</p> <p>(川中子係長) 現在は制度改正をしていないが、今後対応できるようにしていきたい。</p> <p>(加藤委員) 乳児家庭全戸訪問事業について、全数訪問なのにこの達成率はどう理解したらよいか。</p> <p>(高橋係長) ニーズ量は市の人口ビジョンより出生予想数を取っており、それにより達成率を算出している。ビジョンの予想以上に少子化が進行している。</p> <p>(岩本委員) 乳児家庭全戸訪問事業について、訪問の際、母親はどんな様子か。</p> <p>(高橋係長) 1人目の出産の場合、不安が強い傾向があるため、保健師や助産師が1か月以内に訪問指導を行っている。2人目以降の場合でも4か月以内には訪問している。また、不安の強い人には何度でも訪問をするようにしている。</p> <p>(永田委員) 病児・病後児保育事業について、どこでどのように実施しているのか。</p>

会議・打合せ等記録

市長	副市長	部長	次長	課長等	補佐	係長等	担当

	<p>(白井係長) 病児保育は、保育園すまいるくりえいと2で実施しており、病気やケガの回復期でない幼児が対象となる。病後児保育は、茂呂保育園と保育園すまいるくりえいと2で実施しており、病気やケガの回復期であるが、集団保育が困難な幼児が対象となる。また、体調不良児対応型保育もにっこり保育園にあるが、同園に通う園児のみが対象となる。</p>
	<p>(杉山課長) 病児保育の場合でも、病院を受診して、診断を受けてからの預かりとなる。コロナの影響により、発熱の場合などは特に預かりに対し慎重な状況にある。</p>
	<p>(石川委員) きょうだいで一緒に学童に入れないと聞いたが、そういった状況は把握しているのか。今後の対応についてどう考えるか。</p>
	<p>(福田係長) 各クラブからの相談により、状況把握に努めている。今後については、新たなクラブ開設希望者や、現在検討が進んでいるさつきが丘児童会の学童クラブの整備により、預かれる児童数が増えるため、そこで対応をしていきたい。</p>
	<p>(2)鹿沼市こどもの貧困対策推進計画の策定について</p>
	<p>○川中子係長が資料により説明</p>
	<p>(川田委員) 「教育に対する支援」について、市ではどんな支援を想定しているのか。</p>
	<p>(川中子係長) 学習への支援や奨学金など、回答する人のとらえ方で異なるが、柔軟に考えている。</p>
	<p>(加藤委員) 委員の方に伺いたい。朝食を食べずに登校、登園して、朝ふらふらした様子の子どもはいるか。</p>
	<p>(小野口委員) 保育園にも、支援の必要な親や子どもがいる。子どもに朝食を食べさせないといけないということがわからない親もいる。</p>
	<p>(小平委員) 教育委員会で実施しているアンケート調査では、本市の子どもたちは全国平均よりも朝食をとっているようだ。問題は質の向上で、学校では子どもにバランスの良い食事をとる必要性を理解させ、自分で判断できるよう意識付けを行っている。一方で、保護者の意識啓発も必要だと考えてる。</p>
	<p>(石川委員) 大学まで進学したいという子どもの割合が3割程度であることについて、どう考えるか。</p>
	<p>(小平委員) 学校では、小学生のうちから身の回りにどんな仕事、職業があり、どんな人たちに支えられているか知る機会として、キャリア教育を実施している。一旦社会に出ても、学ぶことのできる仕組みがあることも教えている。高度化する社会の中であるが、多様な進路、多様なキャリア、考え方が求められている。</p>
	<p>(石川委員) 様々な選択肢が育まれているのはありがたい。経済的理由で進学をあきらめることのないよう、計画に反映してもらいたい。</p>
	<p>(星会長) 市で実施している貧困対策にはどんなものがあるのか。</p>

会議・打合せ等記録

市長	副市長	部長	次長	課長等	補佐	係長等	担当

	(川中子係長) 家庭相談員が実施する養育支援訪問事業は、貧困の早期発見につながるものとする。
	(寺崎) あおば園は、ニーズ量に対して利用できる回数が少ないように感じるが、足りているのか。小学校との連携はどのようにしているのか。
	(仲田所長) 建物の増築により、相談室を増やすことができ、20人の定員を30人まで増やした。しかし、利用児童が増加しており、本来は年少児童から預かることができるが、年長児しか預かれていない状況である。小学校とは、のびのび発達相談を通して連携を図っている。
	(加藤委員) こども総合サポートセンターでいろいろな情報を得て、それぞれの子どもにあった養育プログラムにより、支援の必要な子どもも無理のない育ち方ができるようになると良い。
	(小平委員) 小学校では、入学前に、各園よりそれぞれの子どもの情報の引き継ぎを行っている。小学校に入学後も、定期的に専門の方に診断してもらい、もらった助言を学校に引き継げば、その子の成長に見合ったサポートをしていけると考える。
	(永田委員) 発達障害は、早期発見、早期対応が重要である。あおば園で年長児しか見れていないのは非常に残念。何か計画はないのか。
	(仲田所長) すぐには対応できないが、多くの児童を預かれるよう、少しずつ工夫をしながら進めていきたい。
	(小野口委員) あおば園は混んでいてなかなか見てもらえない。少しずつでいいので、関わる専門の先生を増やしてもらいたい。
	(仲田所長) 専門職の職員を増やしていけるよう、対応していきたい。
	(星会長) 一緒に住んでいる大人からけなされたり、殴られたりしたことのある子どもや、家族の誰からも愛されていないと感じる子どもが、数%であるが、目に向けなければならない。市はどう考えるか。
	(川中子係長) 担当としても、重く受け止めている。家庭相談員の訪問や、教育及び保育部門との連携を図っていきたい。
	○ (委員) 資料のとおり進めることに異議なし。
	(星会長) 貴重な意見やワードがあった。計画に反映していただきたい。
	7. その他
	(事務局) 会議後に意見等がある場合は、ファックスなどにより事務局まで提出をお願いする。
配布資料	

会議・打合せ等記録

市長	副市長	部長	次長	課長等	補佐	係長等	担当

次回予定	令和4年2月21日		
記録者	福田		
鹿沼市審議会等の会議の公開に関する要綱第2条に基づく審議会等の公開状況 (該当する審議会等以外の会議・打合せ等については記入不要)			
公開・非公開の別	公開・非公開	(公開の場合) 傍聴人数	1人